

# 柏崎市議会「民友」活動報告

柏崎市議会・会派「民友」は「働くひと」の目線で、産業・地域の活性化や福祉・教育の充実をめざして調査・研究を行い、議会での質問・提案を通して実現をはかっています。これまでの主な活動をご報告いたします。

## 相澤 宗一

2011年初当選・3期目  
総務常任委員会 委員長



一般質問 (令和2年度)

【12月】

- ① 持続可能な柏崎市のエネルギー政策
- ② 難局に立ち向かえる市役所組織に

【9月】

- ① 柏崎市のコロナ禍での経済政策
- ② 夏の観光実態と秋に向けての次なる一手

【6月】

- ① これからの柏崎の観光戦略
- ② 柏崎ファンとともに進む

## 佐藤 和典

2011年初当選・3期目  
柏崎市議会 副議長  
産業建設常任委員会



一般質問 (令和2年度)

【12月】

- ① 市長選挙を終え、  
これからの市政運営に向けて
- ② 教育環境の向上は人づくりから

【6月】

- ① 柏崎市政の進むべき方向
- ② 「強く、やさしい子ども」は柏崎の宝

## 近藤 由香里

2019年初当選・1期目  
文教厚生常任委員会  
議会広報広聴常任委員会



一般質問 (令和2年度)

【12月】

- ① 豊かな高齢化社会実現に向けた介護者支援
- ② 市町合併の総括とこれからの市政運営
- ③ 核燃料サイクル推進のために

【9月】

- ① 原発財源の現状と柏崎市の将来像
- ② 介護現場におけるBCP (事業継続計画)
- ③ コロナ禍における次世代へのエール

【6月】

- ① これからの介護が目指すところ
- ② 持続可能な児童クラブの在り方
- ③ 災害時の感染拡大をどう防ぐか



詳しくは「柏崎市議会映像配信」の「インターネット中継」をご覧ください。

<http://www.kashiwazaki-city.stream.jfit.co.jp>

## 視察報告 福島第一原子力発電所 2020.12.3

### 【目的】

柏崎刈羽原子力発電所の再稼働や柏崎市の原子力行政のために、会派としてほぼ毎年、福島第一原子力発電所の廃炉作業や福島復興状況を視察しています。

今回の視察は、現在、国家的課題である福島第一原子力発電所における処理水の性質とその扱いについて、知見を得ることを目的に行いました。

### 【構内の様子】

発電所構内では除染作業が進み、放射線量は事故当時よりも低減し、敷地内の96%が一般服で作業できる環境になっています。(以前は要防護服)

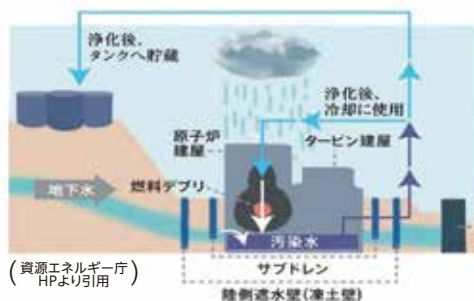
これまで構内視察は車中からの確認のみでしたが、今回はバスを降車して1～4号機原子炉建屋の外観を見ることができました。



### 【処理水の状況】

燃料デブリの冷却水や発電所に入り込んだ地下水・雨水等、大量の放射性物質を含む汚染水は、セシウム吸着装置→淡水化装置→多核種除去設備により浄化され、処理水としてタンクに保管されています。

大部分の放射性物質は除去されますがトリチウムだけは残ります。



多核種除去設備



処理水タンク

(資源エネルギー庁HPより引用)

トリチウムは水と結びついて自然界に広く存在する放射性物質で、体内に入っても水と同様に排出されます。低濃度であれば人体への影響は低く、国内外の原子力発電で発生するトリチウム水は、安全な濃度に希釈して「海洋放出」されています。

福島でのトリチウム水処理は、国が海洋放出と水蒸気放出を検討し、特に海洋放出は実績がある確実な方法ですが、地元の双葉町・富岡町以外の自治体は風評被害を恐れ「サイト内に留め置くべき」との姿勢が強いとのこと。



### 【課題への取り組み】

サイト内のタンク保管容量は2022年に上限に達することから、風評被害の払拭とあわせて処理方法への理解を得ることが課題です。処理水の処分ができれば、廃炉作業が進まず福島復興も遅れてしまいます。原子力発電所立地地域である柏崎市民の皆様にも、ぜひご理解いただきたいと思ひます。

## 令和3年度予算・施策要望 2020.10.26

柏崎市議会では新年度予算・主要施策を会派単位で要望しています。

令和3（2021）年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、厳しい予算編成となることが予想されます。「民友」では新たな時代に向けた持続可能な市政運営を目指して、以下を要望しました。



- 1 原子力発電所の早期稼働実現**
  - ◆原子力発電所の安全確保、安心向上
  - ◆災害時における避難路の早期確保
    - ・国道8号バイパスと既存道路改良工事の促進
    - ・除雪対策の強化・充実
  - ◆原子力政策（核燃料サイクル）に対する理解促進
    - ・放射線教育の充実
    - ・核燃料サイクルへの啓蒙
  - ◆新潟県核燃料税の地元配分比率の増額改定
- 2 産業振興による雇用の拡大・景気の底上げ**
  - ◆市内産業の育成による雇用の拡大
    - ・IT技術に関する人材育成・IOTを活用する事業者への積極的支援
    - ・地域活性化を図る見本市等の開催
    - ・地元企業が就職先の選択肢と成り得るような施策展開
  - ◆働きやすい環境の整備
    - ・高齢者、女性、外国人雇用への環境整備
    - ・育児休暇や介護休暇等の取得支援策の強化
    - ・職場環境改善による障害者の雇用率の向上
    - ・治療と仕事の両立支援の推進
  - ◆持続可能な第一次産業への支援
    - ・新規従事者への支援継続
    - ・地域農業に対するきめ細やかな施策展開
  - ◆地域エネルギー会社による産業活性化
    - ・次世代エネルギー、省エネ関連事業の創設支援

- 3 コロナ禍における医療・介護崩壊の防止**
  - ◆安心の医療体制の確保
    - ・医療従事者の育成、確保、流出防止の推進
    - ・新型コロナウイルス感染症への更なる対応強化と医療従事者、感染者等への風評被害対策
  - ◆介護人材育成・確保施策の更なる推進
    - ・介護事業者と連携した、介護従事者の処遇改善と労働条件の向上
    - ・多様な人材が新規就業しやすい環境整備
- 4 子育て施策・教育環境の更なる充実**
  - ◆子育てしやすいまちの形成
    - ・子育てを担う人材の確保（保育士、児童クラブ支援員等）
    - ・発達障害児童への理解促進と支援者へのスキル向上支援
    - ・児童への虐待防止と防犯体制の強化
  - ◆教育現場の多忙化解消に向けた対策
    - ・教員、指導補助員、介助員の人材の確保
    - ・児童、生徒の自己実現に向けた部活動の組織・指導等、あり方の研究
  - ◆自立とやさしさを育む教育の推進
    - ・文化施設の活用など故郷への愛着や誇りの醸成
    - ・拉致問題解決に向けての啓発活動の継続



- 5 超高齢化を見据えた社会基盤の整備**
  - ・徘徊（認知症）の対策等による介護者の負担軽減
  - ・高齢ドライバーの安全運転支援装置の設置補助
  - ・アクティブシニアの活動領域の拡大
- 6 観光交流人口の拡大**
  - ◆自然や文化・伝統・史跡を活かし、観光交流人口の拡大
    - ・柏崎市の観光資源を生かしたインバウンド推進
  - ◆海を生かした通年観光の実現
    - ・スポーツ合宿の環境整備や誘致活動
    - ・マリンスポーツ等各種イベントや大会の招致
  - ◆「柏崎は恋の街」を柏崎市のイメージ戦略に
- 7 自然災害への対応**
  - ◆CO2削減による地球温暖化の抑制
    - ・食品ロス削減への対策
    - ・ECO2プロジェクト等の意識啓発の継続
  - ◆災害弱者に対する支援
    - ・災害時要援護者への支援体制の確立
    - ・介護・福祉施設のBCP推進
- 8 安心して暮らせる地域社会の構築**
  - ・イノシシ、カラス、ムクドリ、クマ等、市民生活に影響を及ぼす鳥獣等への対応
  - ・過疎地域の町内会の合併支援
  - ・地域交通手段の確保、充実と更なる研究

**新型コロナウイルスに負けずに頑張ろう!!**

## 議員定数 26名→22名 に削減が決定 2020.12.22

柏崎市議会では議会運営委員会で議員定数について議論を重ね、「削減」することで合意しました。

しかし削減後の定数については全会一致を見ませんでした。（民友では20～22名を提案）

令和2年12月定例会議の最終日に議員定数を26名から22名に改正する議員発案が出されましたが（原案）、同日に「23名」の修正案も提出されました。採決の結果、原案が可決しました。（民友は原案に賛成）

次の市議会議員選挙（令和5年4月）から議員定数は22名となります。

議員の数が減っても議会機能を高め、市民の皆様からの負託にお応えできるよう、ますます精進してまいります。